

熊本県立玉名高等学校附属中学校 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標
(1) 誠実さと奉仕の精神を持ち、高い志を掲げ、他者と協働して集団や社会に貢献できる生徒の育成
(2) 文武両道に励み、物事に屈しない強い確かな意志と逞しい精神力を身につけた生徒の育成
(3) 自ら模範となり主体的に学習や課題解決に取り組む豊かな知性と感性を備えた生徒の育成

2 本年度の重点目標
(1) 教育方針
ア 「熊本県教育大綱」及び「令和7年度(2025年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」をはじめとする教育庁各課の取組を踏まえ、校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育を目指す。
イ これまで積み上げてきた本校の教育方針を基本とし、中高一貫教育校として高校のスクール・ミッションや教育目標を踏まえつつ、中高教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりを目指す。
(2) 教育目標
ア 誠実さと奉仕の精神を持ち、高い志を掲げ、他者と協働して集団や社会に貢献できる生徒の育成
イ 文武両道に励み、物事に屈しない強い確かな意志と逞しい精神力を身につけた生徒の育成
ウ 自ら模範となり主体的に学習や課題解決に取り組む豊かな知性と感性を備えた生徒の育成
(3) 教育目標の実現に向けて
テーマ：夢実現・未来への挑戦～Challenge Your Self-will～
ア 玉名高等学校附属中学校の生徒としての基本的な生活習慣の確立
イ 教師の授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導
ウ 日頃からの職員間のコミュニケーションによる学校改革の推進
エ 特別活動(生徒会・部活動等)を生かした、自主性、創造性、協調性及び奉仕の精神などの育成
オ 地域・保護者との連携
カ 読書活動の推進等、言語環境の整備

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の魅力化	併設型中高一貫教育校としての取組の充実	生徒・職員・保護者が、学校の魅力について明確に表現できる教育実践を重ねる。 生徒会スローガン「慧律～Timemanagement(時間管理)、Knowledgeable(知識豊かな)、Gallant(堂々とした)～」の実践。	①教育実践の内容と育てたい資質・能力を明確にして取り組むことで、生徒・職員の達成感につなげる。 ②教育実践の中で、学校の魅力を具体的に整理する。	B	【成果】 生徒の発達段階に応じた、教育実践を行うことができた。日常的に高校生の姿を間近に見たり、行事を共に実施したりすることで、中学生にとっても主体性を高めるよい機会となっている。 【課題】 中高で相互理解を進める必要があり、併設型中高一貫教育校としての効果的な在り方を更に考えていく必要がある。

	業務改善・働き方改革	労働時間の縮減と高校との連携による計画的かつ効率的な業務遂行	見通しをもつことにより、情報共有・協働しながら計画的かつ効率的に業務を遂行し業務削減につなげる。	①行事が終了した時点で反省・改善を行い、次年度の計画を立案する。 ②業務担当者とその方法を明確にし、高校と情報共有しながら業務遂行する。	B	【成果】 Googleチャットを活用し、職員間での連絡や生徒情報の共有を可能とすることで計画的な業務遂行や改善につながった。 【課題】 各分掌業務をマニュアル化することで、業務の平準化や効率的な業務へと改善を進めていく必要がある。
学力向上	質の高い授業の工夫と実践	将来の学びに通じる授業の実践と授業改善	質の高い授業を実感できる生徒が9割以上にする。	①先取り学習、高校職員による講座、探究活動や模擬試験、検定等の充実に取り組む。 ②ICT機器を効果的に活用した授業改善と個に応じた教材開発に取り組む。 ③RSTの結果に基づき振り返りを行い、読解力の向上を図る。	A	【成果】 日々の教科の授業や総合的な学習の時間、教科の専門性を発揮した講座等の取組を行い、96.9%の生徒が工夫された質の高い授業が行われていると実感している。 【課題】 RSTの振り返りを行い、読解力を向上させていく必要がある。
	個に応じた学習指導の工夫改善	一人一人に達成感のある学習指導の実践	一人一人に応じた学習指導を実感できる生徒が9割以上にする。	英語・数学では学習熟度に応じた展開授業を取り入れることで、個に応じたきめ細かな指導を行う。	B	【成果】 ノート添削など各生徒への丁寧な指導を行い、生徒の9割が一人一人に応じた学習指導を実感することができた。 【課題】 今年度も職員不足等教員側の事情により、数学の習熟度別授業をうことができなかった。
中高一貫教育	中高6年間を見通した教育活動の充実	中高連携の充実と協働	生徒の現状と高校のグラデュエーションポリシーを踏まえた指導体制の充実を図る。	①単元配列表を作成し、中高における学びの連続性を踏まえた教科指導を実践する。 ②中高職員による職員研修を複数回実施し、6年間の指導体制をブラッシュアップする。	B	【成果】 併設型中高一校としての在り方や職員間の理解を深めるために中高相互の授業参観を実施することができた。 【課題】 中高の教師間には物理的な壁だけでなく心的な壁がある。次年度はさらに中高職員の授業の相互乗り入れを進め、6年間で生徒を育てる意識や指導体制の構築が必要である。

キャリア教育 (進路指導)	将来の夢や生き方を考える機会の充実	自身の未来像を描き大学や職業について考える機会の充実	学活や道徳、総合的な学習の時間等、将来の夢や人としての生き方を考える機会を適切に設けられていると実感する生徒を9割以上にする。	①中高合同で職業別講話などの進路講演会を実施する。 ②RSTと学推調査の考察を行い、研修会を開き生徒にフィードバックする。	A	【成果】 中学生のこの時期に大学訪問や高校生と同じ講演会など多くの体験ができています。 【課題】 高校まで見据えた6年間計画という観点で中高で連携する必要がある。
生徒指導	礼儀を大切にし、自主的・自律的に判断・行動できる生徒の育成	様々な教育活動において自主・自律を育む指導の実践	生活リズム、挨拶や言葉遣い、時間厳守、交通安全、自転車の二重ロック、公共マナーなどの指導をとおして自主的・自律的な言動を確立させる。	①朝の健康観察を行い、健康の大切さを理解させる。 ②学級活動や全校集会等とおして、礼儀や規範意識について考えさせる。 ③スマホ等の使用ルールについてのアンケートをもとに、全体と個人の振り返りを行う。	B	【成果】 担任を中心に確実に健康観察ができていた。二重ロックは徹底調査で、確実にできるようになった。 【課題】 大きな問題にはなっていないが、まだまだスマホ等の使用ルールは徹底できていない。今後も「自律」に対する継続した指導が必要である。
	生徒会・部活動等の活性化	生徒会や委員会活動、部活動をとおした主体性の育成	生徒が主体的、計画的に取り組む生徒会活動を確立させ愛される玉附を目指す。	①生徒会活動や委員会活動の機会を精選し、内容の充実を図る。 ②計画をもとに、学習と部活動の両立が図れるようにする。	A	【成果】 生徒会活動、部活動ともに、教師の関わり方も適切であり、好成績を残すことができた。 【課題】 学習と部活動の両立に関しては、学習課題の提出に課題がある。
人権教育の推進	自他ともに大切に する人権意識の涵養	差別や偏見に気づきその背景を理解しようとする態度の育成	道徳や学活などを通して、適切な人権教育が行われていると感じる生徒の割合を9割以上にする。	①道徳での取組、学級旗製作、人権標語の作成、人権集会の実施など、生徒が自他の人権について考える機会を設ける。 ②各教科の授業や生徒会活動においても人権教育に関する内容に触れ、人権意識の涵養を図る。	A	【成果】 具体的目標は生徒の回答が98.5%で達成することができた。 県の人権子ども集会で実践報告を行った。 【課題】 人権教育に関する授業を当初の計画通りに実施できなかったため、学活の時間の確保が必要である。

	「命を大切にする心」を育む教育の充実	命の大切さに気づき自他の命を大切にしようとする態度の育成	命の大切さに気づかせる場面の設定と、学びを深める返しを实践する。	①緊急時の対応について、自助と共助双方の学びを行う。 ②SOSミニレターなどSOSを発信できる環境を整備する。		【成果】 避難訓練を行い、緊急時の行動について学習することができた。 【課題】 98.5%の生徒が命を大切にすることを育む指導が適切に行われていると実感しているので、これを維持していきたい。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	いじめの本質に気づき、いじめのない学級・学校づくりに貢献できる意識の涵養	生徒一人一人について理解を深め、職員で情報共有を図る。心のアンケート等の実施と適切な対応を徹底する。	①日常の生徒観察、スコラ手帳等を利用した「生徒の小さな変化や兆し」への目配り気配りを行う。 ②心のアンケートや教育相談をとおして生徒の状況を細かく掌握する。 ③学級旗製作や人権ボランティア委員会等の活動をとおして、「いじめを許さない集団づくり」を行う。 ④スクールサインや相談窓口の周知を行う。	B	【成果】 担任を中心に職員が生徒とよく関わっており、何かあってもすぐに対応ができていた。またアンケートをもとに生徒の状況を常に把握することができた。 【課題】 問題行動やいじめの可能性への対応も迅速にでき、解消・見守りができたが、未然防止の対策に更に努めなくてはならないことを感じている。 スクールサインは、説明後に各クラスで登録を行い、しっかり周知できた。
特別支援教育	教育相談と一人一人に応じた支援の充実	生徒理解を深め個別の支援等の実践	生徒理解について情報を共有し、個別の支援体制の確立と実践を行う。	①引継事項等に基づき、特別な支援を要する生徒を把握し、職員間で情報共有を行う。また、高校とも連携を図り合理的な配慮についての見識を広げる。 ②教育相談等で生徒の困り感を把握するとともに解決に向けた支援委員会を実施する。 ③不登校や別室登校等に応じた支援についてSCを含めた会議を学期に1回行う。	B	【成果】 中学職員会議での共通理解。健康保健部会や生徒支援委員会での高校との連携を行うことができた。 教育相談やSCを含めた不登校の対策会議を実施し、不登校の改善や予防に努めた。数名不登校の改善が見られた。 【課題】 不登校の生徒や配慮を要する生徒のための別室が現状1室のみなので、今後整備が必要である。

<p>学校保健・学校安全</p>	<p>安全な学校づくり及び自ら健康で安全な生活を実践できる生徒の育成</p>	<p>安全な学習環境の確保と健康的な教育活動の支援</p>	<p>学習環境の整備により、ケガや事故等を未然に防止する。心身の健康について生徒自らが気づき・考え・行動する力を養う。</p>	<p>①定期環境衛生検査や日常点検を行う。 ②視力低下の健康課題について委員会が中心となって対策を考え行動する。 ③ストレス対処教育等を実践し、日頃からの仲間づくりを大切にしながら良好な対人関係の構築を図る。</p>	<p>B</p> <p>【成果】 委員会を中心に健康課題の現状と対策について考えた。生徒朝会で姿勢やメディアの時間、外遊びの推進、ハミガキについて提案を行えた。 【課題】 SCの授業+日頃からの仲間づくりについて、生徒・職員からのいろいろな視点から意見を出し合い、企画する必要がある。</p>
<p>環境教育</p>	<p>環境について気づき・考え・行動ができる生徒の育成</p>	<p>省エネや環境保全に自主的に取り組む態度の育成</p>	<p>生徒自身で、教室の環境整備に取り組み環境ボランティア活動やリサイクル活動を企画・実践できる。</p>	<p>①生徒会が主体となり、SDGsを意識した学校版環境ISOや服のチカラプロジェクトやコンタクトレンズのケース回収活動などのボランティアにも取り組む。 ②美化コンクールの振り返りを通して環境への意識を高める。 ③花壇コンクールなどを通して環境について考え、実践する力を養う。 ④生徒が教室の電灯の消灯を確実にできるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【成果】 生徒会執行部を中心とした「服のチカラプロジェクト」ができた。また環境委員の美化チェックを実施することでSDGsや学校版環境ISOへの意識づけができた。 【課題】 教室の電灯の消し忘れ等がたまにあり、生徒の意識をより高める必要がある。</p>
<p>情報教育</p>	<p>情報リテラシーの涵養</p>	<p>将来にわたって有用な情報活用能力の育成</p>	<p>高校と連携を図りながら、各学期1回以上の情報モラル講演会等を計画・実施する。</p>	<p>①技術家庭での基礎的な学びをはじめとし、他教科や総合的な学習の時間でICT活用を推進する。 ②授業や講演会などで学んだ情報モラルに関する知識を家庭でも共有できるよう、ワークシートの工夫やホームページでの発信を行う。</p>	<p>B</p> <p>【成果】 ICT活用は全教育活動で行われており、学校行事を中心とする学校の様子をHPなどで家庭と共有ができた。 【課題】 情報モラルの意識向上という観点では情報発信がまだまだ不足している。</p>

読書指導	読書による豊かな感性の育成	読書に親しみ、豊かな感性と幅広い知識を身に付ける。	読書指導や図書館の充実などが図られていると感じる生徒を6.5割以上にする。	①図書館委員会の活動内容を仮校舎対応に合わせて工夫改善し、その推進を図る。 ②図書館終礼や図書館だよりの発行により読書活動に関する啓発を行う。 ③読書感想文・感想画・読書手帳の取組や各教科での読書紹介などの取組を行う。 ④図書館委員会の活動の工夫により、平均一人15冊以上の貸出を目指す。	B	【成果】84%超の生徒が読書指導や図書館の充実が図られていると回答している。図書館終礼によって貸出率の向上につなげた。読書感想文に全員で取り組み、多くの生徒が入選した。 【課題】図書館終礼が年間計画に入っておらず、回数が減ってしまい、貸出率の向上への効果が思うように上がらなかった。図書館改修中のため、貸出率低下を懸念し、図書館委員会が移動図書館などの工夫することができた。また、来年度は新図書館となるので、貸出率向上が見込める。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	保護者や育友会との連携	各種の通信・学校HP、授業参観等を通じた保護者との連携	学校との連携に肯定感を持つ保護者を、9.5割以上にする。	①学級通信の発行のほか、HPの「附属中ブログ」で密に情報発信を行う。 ②授業参観、三者面談等を実施することにより、学校の取組や生徒の様子を保護者に伝え情報を共有する機会をつくる。	A	【成果】連携についてのアンケートに95%の保護者が肯定的な回答をしているため目標を達成した。 【課題】ブログや通信、育友会行事などを通して子どもたちの学校生活の様子をさらに伝えていく機会を増やしたい。
	開かれた学校づくり	関係機関との連携	総合型コミュニケーション・スクールをはじめ、様々な関係機関との連携により、本校の魅力化等に向けての検討を重ねる。	年間2回以上、学校運営協議会を開催し、各委員から幅広く意見を伺い、学校運営にいかす。	B	【成果】2年生の職場体験では地域事業所の協力を得て十分な成果をあげた。 【課題】学校運営協議会における意見を活かすための工夫が必要であった。

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の最大の魅力は、中高一貫教育である。職員数の不足等の課題はあるが、中高の枠を超えた授業等の取り組みを、今後も進めてほしい。 ・アンケートの「本校に入学してよかった」の項目では、生徒・保護者共に肯定的意見が多く一定の評価を得ている。しかし、否定的な少数意見も聞き入れながら取り組みを続けてほしい。 ・生徒アンケート、保護者アンケートに比べ、職員アンケートの結果が厳しい評価になっている。職員の目標自体を厳しく設定しているのではないかと思われる。職員はしっかり取り組まれており、保護者は先生方にとっても感謝していることを伝えてほしい。 ・数学の習熟度別授業は、当初の2クラス3展開の予定から2クラス2展開になったが、授業等が工夫されており生徒は満足していると聞いている。
--

5 総合評価

全体としてCやDの評価はなく、「A（目標達成）」または「B（概ね目標達成）」の評価となっており中高一貫校としての強みを活かした教育活動を展開している。

1 学習・進路指導の成果

- ・質の高い授業の実践（評価：A）：ICT機器の効果的な活用や、高校職員による講座、探究活動の充実により、96.9%の生徒が「質の高い授業が行われている」と実感している。
- ・キャリア教育（評価：A）：中高合同の進路講演会や大学訪問など、中高一貫校ならではの早期体験が功を奏し、生徒が将来を考える機会が適切に設けられている。

2 生徒の人間性と主体性の育成

- ・人権教育（評価：A）：「自他を大切にすると人権意識」について、生徒の肯定的な回答が98.5%に達しており、極めて高い成果を収めている。
- ・生徒会・部活動（評価：A）：生徒の主体的な活動が確立されており、部活動等でも好成績を残している。
- ・地域連携（評価：A）：保護者のアンケートで95%が学校との連携に肯定的であり、信頼関係が強固である。

3 まとめ

「中高一貫教育のメリットを最大限に享受しつつ、職員の協働体制と施設面の課題を解決していく段階」にある。生徒の満足度は非常に高く、教育の質は担保されているが、教員の業務準化（マニュアル化）や、中高のシームレスな連携体制をさらに強固にすることが、課題である。

6 次年度への課題・改善方策

1 次年度に向けての課題

- (1) 中高連携の「心理的な壁」の打破：物理的な連携（行事や研修）は進んでいるものの職員間の理解をさらに深め、「6年間で生徒を育てる」という意識の更なる統一が求められている。
- (2) 個別指導の体制整備：英語・数学での習熟度別授業を目指しているが、教員不足等の事情により数学の実施が困難であったため、指導体制の構築が課題である。
- (3) 不登校支援の環境整備：別室登校などの支援を行っているが、準備できる教室に限りがあり物理的な環境整備が必要である。
- (4) 読書活動の活性化：図書館の改修に伴い貸出率が思うように上がらなかったため、新図書館の開館に合わせた利用促進策が課題である。

2 改善方策

- (1) 学校運営・中高連携
 - ・高合同教科部会の定例化と「6年間カリキュラム」の更新：中高の教師間の「心理的な壁」を取り払うため、学期に1回、中高合同で単元配列表（グラデーション）の有効性を検証し、指導の連続性を強化する。
- (2) 学習指導・学力向上
 - ・ICTを活用した「個別最適化された学び」の導入：教師不足等で数学の習熟度別授業が困難な場合でも、ICT機器を活用した個別ドリル学習や、高校職員による高度な講座を組み合わせることで、生徒の9割以上が達成感を持てる授業を展開する。
- (3) 生徒指導・自律の育成
 - ・生徒主導の「スマホ利用ルール」の再構築：教師による一方的な指導ではなく、アンケート結果をもとに生徒会が中心となって、自律的にルールを守るための啓発活動（ワークショップ等）を実施する。
- (4) 読書指導・環境整備
 - ・図書館終礼を年間計画に確実に組み込み、図書委員会による「移動図書館」の継続や、新図書館でのビブリオバトル開催により、平均貸出冊数の増加を目指す。
- (5) 不登校・別室登校支援の物理的改善
 - ・1室のみである現在の別室登校環境を工夫し、パーティションの設置や空きスペースの活用によって、多様な背景を持つ生徒が安心して過ごせる居場所を確保する。
- (6) 教科横断型の「ブック・レコメンド」
 - ・国語だけでなく、数学や社会の授業で関連する書籍を紹介し、図書館終礼でその本を紹介する時間を設けることで、読書を「勉強の一部」ではなく「知的好奇心の充足」へと繋げる。